

## 保育内容「表現」における教材研究

—紙芝居・パネルシアター・ペープサートを作って、演じて—

井戸裕子

(東京家政大学)

### 1、研究の目的

保育教材といわれている幼児を対象とした文化財の“紙芝居” “パネルシアター” “ペープサート”を作成し、子ども達の前で演ずることをとうし、保育者を目指す学生、得られることが、何なのかについて調査したい。

### 2、手続き・方法

この調査は、保育内容「表現1」の授業内課題の一部である。

調査対象者は、東京家政大学短期大学部保育科2年生240名

この学生の提出したレポートからの報告で、統計処理による結果は期待していない。

“紙芝居” “パネルシアター” ペープサート “作成の手続き

- ・ 学生は、“紙芝居” “パネルシアター” “ペープサート” それぞれの特徴を学んだ後、各自表現したい教材を選択決定し、製作する。
- ・ 子ども達に 何を伝えたいのか “ねらい” を設定させ、内容を検討し、脚本化する。
- ・ 対象年齢も考慮に入れるように指示
- ・ 白ボウル紙、不織布 (pペーパー)、薄口画用紙、ペープサート用の竹棒、クラフト封筒0号等、授業内に各学生必要数配布
- ・ 描画材は、各学生に、準備させた。

作成の期間

- ・ 平成12年5月16日、23日、30日 (週1回 90分授業)

- ・ 5月30日 提出 (作品本体、演じ方、脚本を同封)
- ・ 7月11日 前期授業終了時に、作品を返却し、夏休み期間中に、子ども達の前で実践したレポートを 9月29日 後期の初日に提出

### 3、結果および考察

子ども達の前で実践したレポートには、①製作した教材の種類、②作品のタイトル、③ねらい、④対象年齢、⑤実践年月日、実践場所、実践時間、⑥実践対象者 (年齢・人数)、⑦実践結果、⑧実践についての考察、⑨感想 を B5 版レポート用紙 3枚にまとめて提出させた。

#### A 実践結果

各自製作した作品を 子ども達に見せる前に、自分で作ったことをはっきり伝えてから実践した結果

<A-1>

「この紙芝居、お姉いちゃん先生が、学校で作ったんだよ、だから 絵があんまり上手じゃあないけれど、お姉いちゃん 頑張って作ったから、みんな静かにお話をきいてね。」と 子ども達に話すと、子ども達はたちあがって、紙芝居をのぞきこんで、「この絵お姉いちゃんかいたの?」「お話も お姉いちゃんが作ったの?」とみな聞いてくれた。私が作ったという事に興味を示して、うれしかった。

紙芝居を演ずることは緊張しなかった。

演じ終わったあとも、「これほんとうにお姉いちゃん先生が作ったの?」「絵も書いたの?」「すごーいじょうずだね」「クレヨンちゃんが、すごーくかわいい」

と子ども達が みんなで誉めてくれて、ほんとうに作ってよかったと思いました。

#### <A-2>

「今日は、〇〇ぐみのお友達のために、特別な紙芝居を持ってきました。じつはね、この紙芝居は、先生が作ったものなんだよ！」と言って子ども達の前に出すと、始めから皆静かに 私の紙芝居を見ようとしていた。その後もずっと静かに聞いていて、最後までスムーズに終わることができました。

#### <A-3>

実習先の担当の先生が「先生が今日読んでくれる紙芝居は、先生が自分で作ったんだって」という先生の言葉に子ども達はとても興味を持ち、実習生の近くに集まって「見せてー。」と言ってくる。

子どもは「手作り」という言葉にすぐ反応し、興味を持ってくれた。

話しの内容よりも、きつねやうさぎの絵に関心をもって「どうやって作ったの?」「どうやって書いたの?」「絵を見せてー」と手を伸ばしてくれたとき、作った甲斐があるなあと感じた。

お昼寝の時間にも、子どもから「どうして紙芝居 作ったの?」と質問され、改めて、手作りの暖かさを感じ、子ども達の興味を引くものだと再確認できた。

#### <A-4>

「今から先生が手作りの紙芝居を読んでもくれます」と言ってくれました、..... (中略)

紙芝居の最後の一枚を読み終わって「おしまい」と言った後、子ども達は、「これ本当に先生が塗ったの?」と何度も聞いてきました。

手作りだということが、こんなに子ども達に興味を持たせるのかと驚きました。そして、こんなに喜んでくれるのかと思い、とても嬉しくなりました。読み終わった後、子どもに「おもしろかった」と言われたことがとてもうれしくて、作って本当に良かったと思いました。

### B 実践結果

対象年齢に実践した結果

#### <B-1>

①パネルシアター ②ねすみくんのチョッキ ③動物のお話によって登場する動物に親しみをもつ ④2

歳児 ⑤平成12年9月14日 11時30分から45分 りす組の部屋 ⑥2歳児13名、保育士2名 ⑦実践結果、.....、園庭で運動会の練習後の部分実習

実習生は、パネルシアターの準備をしている。そのすがたを子ども達が「何か見せてくれる」と悟ったらしく、自分達で ままごと用のイスをパネルの設置してある前に次々と並べ イスのとりあいのけんかがはじまる、.....、(担当保育士が中にはいりおさめた)

導入の手遊びをし、パネルシアターを始める。

子ども達は、真剣に聞いていた。話に集中している様子。

⑧実践についての考察 .....、教材の題材が“ねすみくんのチョッキ”という2歳の子ども達に親しみのある話であり、知っている話が、目の前で動いたりしたので(絵本とはちがった形で)子ども達の気をひくことができた。

15分という短時間だったので、子どもが集中で来た、.....、(中略)、.....、

パネルを準備するタイミングは大切、.....、(中略)

⑨感想、.....、自分でがんばって作ったものの方が愛着もあるし、責任を感じると思った、.....、(中略)

子ども達は、真剣にパネルを見て、話を聞いてくれた。私も一生懸命作った甲斐があったなーとあらためておもった。演じている時は、本当に演じることだけになってしまった気もする。もう少し、子どもの参加をはかるのもよかったのではないかと後で思った。

また、声の違いがあまりできなかったので、もっと、もっと練習を重ねるべきだったと思う、.....、(中略)

**実践結果報告** <A-1> <A-2> <A-3> <A-4>に共通するのは、子ども達は、手作りを大変喜び、興味を示すということが、子どもの前で演じ実体験として感じている。

対象年齢以外に演じた場合の実践例は、紙面の都合で示していないが、子どもそれぞれの発達に応じた演技方をした者や、自分の考えた通りを演じて、みごとに失敗であったと反省している学生も報告されている。

### まとめ

自分で作り、演じて子ども達に興味をもって聞いてもらうことにより、また作って子ども達に伝えたいという気持ちが大きくなっているようである。